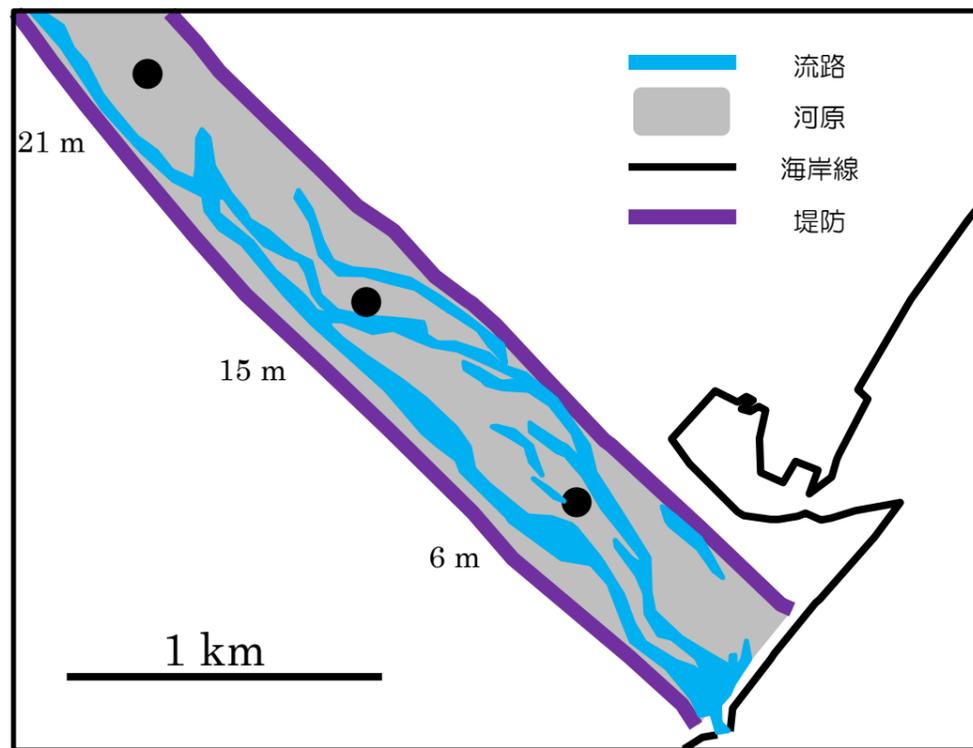
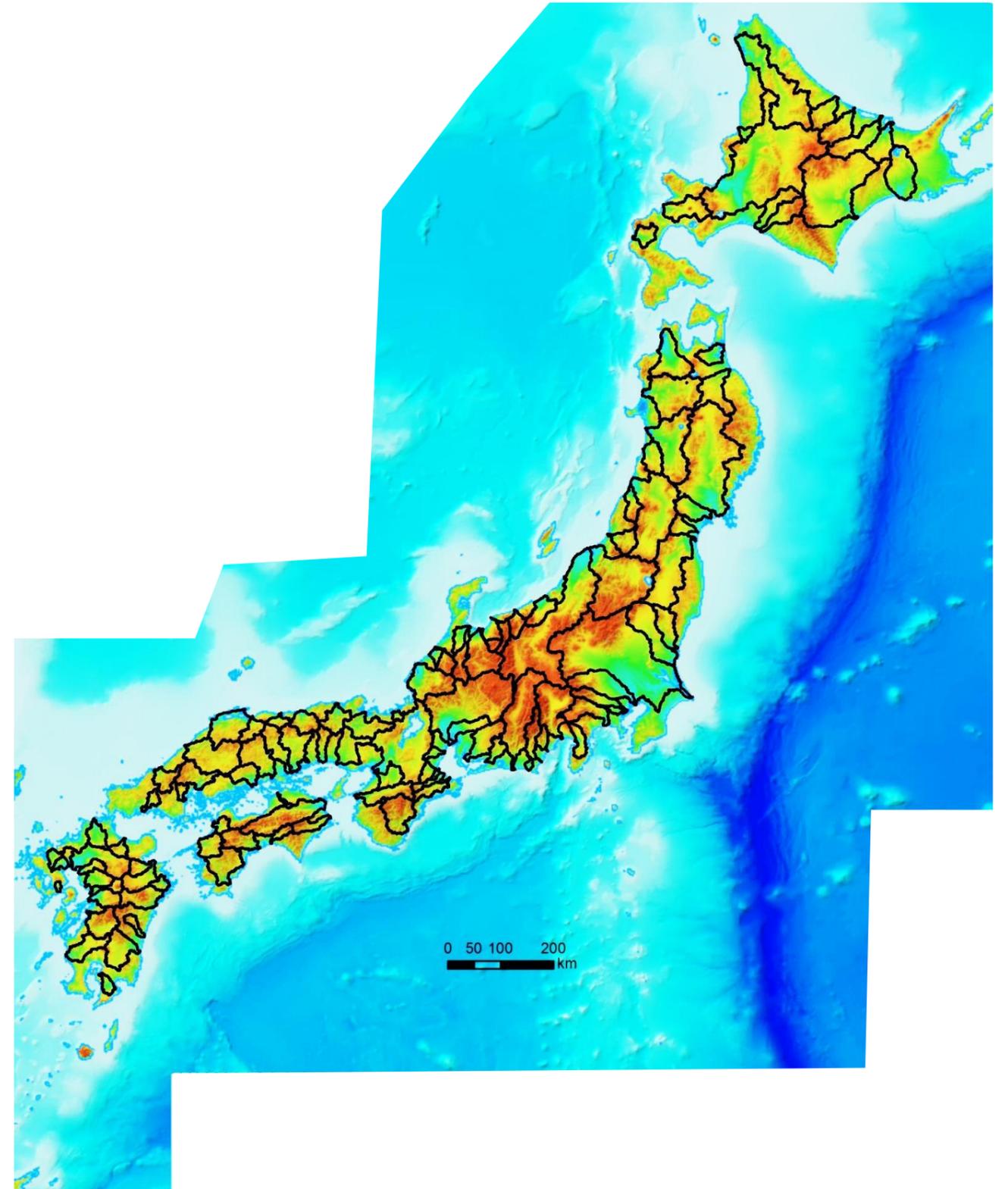


河口の流路形態のスケッチ（大井川の事例）



日本の一級河川\*の流域



\*一級河川とは、国（国土交通省）が管理している河川のこと

中学校社会科教科書の平野の地形の説明

流路の形態とその形成環境

出典：『中学校社会科地理分野』帝国書院 2012 年版，132～133 頁

	網状流路	蛇行流路	分岐流路
模式図			
形態	低水時（雨が降っていない時）は、中州によって水流がいくつかに分かれ、それらが再び合流して、網目模様の平面形態を示す。高水時（大雨の時）は、中州が水没して、1本の流路になる。	流路が、左右に滑らかに屈曲して、S字を連ねたような平面形態を示す。	1本の河川が、下流に向かって分岐した平面形態を示す。高水時にも、単一の流路に合流することなく、別々に流れる。
形成環境	急勾配（1/10～1/1000）で、粗粒な土砂（砂*や礫**）を多量に流送する河川において、形成される。 *砂は 0.02～2 mm のもの **礫は、2 mm 以上のもの	網状流路よりも緩い勾配（1/10000～1/1000）で、主に砂からなる河川において、形成される。	きわめて緩い勾配（1/10000 以下）で、主に砂よりも細かい物質（シルト、粘土）からなる河川において、形成される。やや勾配が急なところで形成されることもあるが、一時的なものであり、いずれは最も急な流路のみを流れるようになる。これに対して、きわめて緩い勾配な流路では、どこを流れても、勾配に違いがないため、いずれかの流路に収束することがなく、分岐した状態が維持される。

出典：鈴木隆介（1998）『建設技術者のための地形図読図入門 第2巻 低地』古今書院。